

平成20年6月定例市議会

提 案 説 明 要 旨

総 社 市

本日、6月定例市議会を招集いたしましたところ、議員の皆様にはお繰り合わせご出席いただき、ありがとうございます。

日ごろより市議会をはじめ、市民の皆様には市政の推進に格別のご協力を賜っておりますこと、重ねて厚くお礼申し上げます。

先般3月に行われた市議会では、行政改革、大型プロジェクトの見直しということで、歳出を抑制し、厳しい運営の中においても、地域主義、弱者主義、格差是正というテーマ、透明性、公平性、平等性などの実現に向けて、確たる礎を築いていきたいとの思いのなか、「未来創生」のための出発点と位置づけました。

そのなかで、予算を伴うものとしまして、「子育て王国そうじゃの実現」、「地域主義の確立」、「弱者主義」、「人材育成」の4点、予算はあまり伴わないものでアイデアや発想によるものとしまして、「観光への取り組み」、「県立大学との包括協定」、「職員の人事考課

制度の策定」，「アイデアの源としての幹部会議の改革」の4点について，大いなる決断に踏み切ったところでございます。

変革へ向けた様々な種は蒔かれています。この先は，これらを芽吹かせ，花開かせ，そして形を成していく期間ととらえています。そのために，ドラスチックな意見，忌憚のない十分な議論，そして時間という糧を与えていただければと考えております。

平成20年度も既に，2ヶ月が経過いたしました。2ヶ月間という短い期間ではございますが，既に内部で新しい動きが出ているものも幾つかございます。まさしく今は，変革へ向けた「胎動」の時期であると感じております。

では，現在進めております事業について御報告をさせていただきます。

まず1点目といたしまして「子育て王国そうじゃ」の実現についてでございます。

子育て支援事業として、さまざまな事業を展開しているところでもあります。4月から小学校6年生までの医療費の無料化をはじめ、子育て家庭へ「子育てバリアフリーマップ」及び「子育て支援BOOK」を配布し、スマイル保育園が開園し、阿曾地区には放課後児童クラブを開設したところでもあります。

また、こんにちは赤ちゃん事業としまして、生後4ヶ月までの乳児のいる家庭を全戸訪問しての育児相談も開始しております。

今後ますます「子育て王国そうじゃ」のまちづくりを進めていくために、5月に立ち上がった「子育て王国そうじゃ」まちづくり実行委員会により、「子育て王国そうじゃ」ロゴ募集やももっこカード協賛店の拡大など、市民・企業・行政が協働して、子育て家庭を応援してまいりたいと考えております。

また、15市一の子育て王国を目指すため、子育て支援事業の各ジャンルで数値目標を設定し、努力してまいりたいと思います。

次に２点目といたしまして「観光への取り組み」で  
ございます。

御承知のとおり本市は，古代吉備文化の発祥の地  
あり，備中国分寺，鬼ノ城に代表される文化財，固有  
の歴史や文化，あるいは交通アクセス等の地理的条件  
にも恵まれております。

このような有形無形の観光資源を，いかに魅力ある  
まちづくりに活かせるのか，いかにすれば「行って  
みたいまち総社」というイメージを全国発信できるか  
を，さまざまな観点からアドバイスをいただきたいと  
考え，去る５月１７日に新たな観光組織として「総社  
観光プロジェクト」を設立いたしました。

会長には，ジェイアールコミュニケーションズの  
浅沼社長に，副会長には，総社市観光協会の守安会長  
に，委員には，民俗学者の神崎先生，工業デザイナー  
の水戸岡先生，アルピニストの野口健さん，ＪＲ岡山  
支社長，ＪＴＢ岡山支店長などその道のプロといわれ  
る多くの有識者を始め，市内各種団体の代表者など

20名の方々に御就任いただきました。

私は、この会に「総社市の知名度アップや観光客誘致に向けた新しいアイデアや発想」をお願いしましたところ、第1回目の会議から本気モードで熱のこもった意見が交わされました。私も出来る限りこの会へ出席し、議論に加わることをお約束したところでございます。

今後、総社観光プロジェクトにおいて協議を重ねていただきながら、観光推進のために何が必要なのか、また、具体的にどう進めていくべきか、といったことに対する様々な御提言をいただくこととしております。

また、去る5月25日には、この総社観光プロジェクトの委員でもある野口健さんに「総社市環境観光大使」に御就任いただきました。

野口健さんには、おおいに環境観光大使として総社を全国に情報発信していただきたいと考えております。

次に3点目といたしまして「県立大学との連携」についてでございます。

岡山県立大学と包括協定を締結し、より一層の連携交流を図っており、先般、5月29日のOPUフォーラム2008にも総社市として初の出展を行いました。

また、5月9日に学長を訪ね、連携に関する協議を行いました。今後は、学長と市長の意見交換の場をできる限り月1回は行うこととし、第1回目を6月26日に開催することといたしました。更には、大学幹部と市役所幹部の意見交換の場も年2回程度開催することも決定いたしました。意見交換の場では、形にとらわれることなく、率直な意見や要望を出し合い、取組むべき課題や連携の方策を見つけ、協働のまちづくりパートナーとして交流が深まることに期待いたします。

また、「大学のあるまち そうじゃ」を広く市民にアピールするため、市役所玄関西のスペースを利用し、

県大関連の展示を行ったり，県大祭への参加についても意見交換をしたいと思います。

夏休みには親子向けの県大見学ツアーの実施もしたいと思いますし，さらに，共同研究を実施し，県大のもつ専門知識を市政に生かしていきたいと思えます。

次に4点目といたしまして「職員の人事考課制度の策定」についてでございます。

平成20年4月18日人事考課制度策定委員会を発足し，同日第1回の委員会を，5月16日に第2回の委員会を開催いたしました。

この委員会は，他市では例の少ない，民間企業の方6名，県立大学の先生1名が委員として参画した組織となっております。

市民サービス向上のために，職員のコンピテンシーを維持・向上させるためには，どのような制度が必要であるかなど，民間の考え方に触れ，活発な議論を行



っております。

平成20年10月試行を目指し、民間のノウハウを積極的に取り入れながら、職員の意識改革・人材育成が図れ、市民サービスが向上する、総社市流の人事考課制度を作り上げていきたいと考えております。

次に5点目といたしまして、「幹部職員の改革と市民との対話」についてでございます。

私は、市民の幸せをつくり出していく具体的な事務事業については、それぞれの事務方のトップである各部長が説明責任を果たし、市民のみなさまの御理解をいただくべきであると考えます。

そのため、本市の最高幹部会議である「庁議」のメンバーを中心として、職員自らがつくる部長マニフェストを策定し、この夏には市のホームページ上で、市民のみなさまにお示ししたいと考えております。そして、このマニフェストを市民の皆様によく理解していただくため、7月から分館単位に市内全地区を回

り、「ガラス張り公開市長室」を開催してまいります。

この市長室は、市長が自分の思いをしゃべり、参加した住民が要望事項を述べるという片側通行のものではなく、事務方のトップである部長が具体的な市の目指す方向性と事業について説明し、その内容について市民と行政が建設的な意見交換をする内容の濃いものにしたいと考えております。

このガラス張り公開市長室には、ぜひ議員の皆様にも御臨席賜ればと思いますのでよろしくお願いいたします。

また、これからは市政モニター会議やまちづくり協議会などの会議におきましても、市の側から事業を説明し、その内容について忌憚のない議論を行う、できることはいつやる、できないことは何故できないかをきちんと説明する。そういった情報のキャッチボールをやっていきたいと思っておりますし、その主役は各部長でなければならないと考えています。

先日も、今年度からの市政モニター会議のあり方を

大きく変更いたしました。

従来、この会議は、市長との意見交換が中心となっていました。今年度からは、その在り方を見直し、市政モニターの方々に市の重要施策についての十分な説明を行ないながら、それに対するモニタリングやチェックに重点をおいていただくため、これまでの年2回開催を改め、年4回開催といたします。

第1回の市政モニター会議を4月25日に開催しましたが、担当部長からも直接、市政モニターの方々に、市の重要施策の説明をさせていただき、それに対するご意見等をいただいております。

今後、会議では、進捗状況等も含めて報告させていただき、モニタリングの結果や御意見等をお聞きかせ頂きながら、公平、公正、透明な市政運営に努めてまいります。

次に大型事業の見直しに関するものとして高梁川新架橋について御報告させていただきます。

高梁川新架橋につきましては、先の3月定例市議会で「新架橋の今後のあり方について幅広く市民から意見を伺う審議会を立ち上げる」と申し上げておりましたが、その後、学識経験者、各種団体の代表者など計20人の委員で組織する「総社市高梁川新架橋整備方針審議会」を設置し、第1回の審議会を4月30日に、第2回の審議会を5月27日に開催いたしました。

審議会では、岡山県立大学デザイン学部長のやまだたかのぶ山田孝延先生が会長に選任され、委員の皆様方に共通認識を図るべく、この事業の経緯と概要を御説明させていただき、同日付けで、この審議会に対しまして、高梁川新架橋の必要性等について諮問したところでございます。今年8月に答申をいただき、議員の皆様方の御意見もお聞かせいただきながら、10月を目途に高梁川新架橋の今後のあり方を決定したいと考えております。

なお、審議会の内容につきましては、広報紙やホームページ等を活用し広くお示ししていきたいと考えて

ております。

次に、雨期に向けての防災体制についてでございます。

ミャンマーのサイクロン、あるいは中国の四川大地震などのように、自然災害は突如として発生し、時として甚大な被害を及ぼすものであり、その脅威は想像を越えるものでございます。しかし、防災体制しだいで人的被害を未然に防ぐこと、あるいは2次災害を最小限に抑えることは可能であろうと思います。

市内の災害発生のおそれのある箇所につきまして、先日、現地調査を行いました。その調査結果を踏まえ、万一の際の非常体制等につきまして、災害対策本部会議で協議、確認したところでございます。

また、昨日1日には、消防団等の参加による水防訓練を実施し、災害時における水防工法、中洲救助の演習も行ったところであり、さらに、明日3日には、県主催の図上の水害特別防災訓練にも参加する予定としています。

「災害への備え」につきましては、万全の体制で臨む所存でございますが、市民の皆様におかれましても、万一に備えまして、「自分たちの地域は自分たちで守る。」という自助、共助の気持ちを持っていただくとともに、「自主防災組織」の設立をぜひともお願いしたいと考えております。

最後に、総社市の魅力を全国発信する方法について、いま私の感じていることを述べさせていただきます。

総社市では吉備路のイベントとしてのれんげ祭りなど数多くのイベントがございますが、平成14年度まで開催していた吉備路マラソンのようなマラソン大会を開催し、総社市を全国へアピールしたいと考えております。

近年、スポーツへの関わり方も「する」「見る」「支える」など多様化しております。マラソン大会の開催は、市民の健康の増進と体力の向上、ボランティアとして大会を支えることの大切さ、吉備路のPRと地域の

活性化など、得られるものは数多いものと思っています。  
その目的を達成するためにも全市的な取り組みを展開し、市の一大イベントとして定着させていきたいと考えております。

ぜひ実現させたいと考えておりますので、議員の皆様をはじめ、市民の皆様の御協力と御理解をお願い申し上げます。

さて、今議会に提案いたしております議案は、

報告に関するもの	4件
条例の一部改正等に関するもの	2件
平成20年度補正予算に関するもの	1件
その他のもの	1件

の計8件でございます。

上程されました議案につきましては、それぞれ担当職員から御説明申し上げますので、十分ご審議をいただきまして、いずれも適切にご議決を賜りますようお願い申し上げます。提案説明といたします。